レクチャー＆ライブ

チェロは美しい！ 歌と室内楽のひととき2

～メンデルスゾーン：飛翔と祈り～

at 愛知サマーセミナー 2015

http://www.samasemi.net/

日時：2015 年 7 月 18 日（土） 14:50-16:10

場所：椙山女学園大学

国際コミュニケーション学部棟 G階 010教室

星ヶ丘駅徒歩5分

参加費：無料　講座番号 D218

Jakob Ludwig Felix
Mendelssohn Bartholdy,
1809-1847

講師，チェロ：鷲津 仁志

ソプラノ：村井 都

ヴァイオリン：　石川英樹　ピアノ：鷲津潤爾

メンデルスゾーンは，19世紀のロマン派音楽を確立した人物です．交響詩の実質的な創始，ソナタ形式における循環書法の確立，性格小品集の確立，ヴィルトゥオーゾとは異なる交響的な協奏曲の提示，ロマン派における宗教音楽，交響曲，室内楽，オルガン音楽の確立．さらに，バッハ再興，指揮の確立，音楽院の創立と教育などが業績として挙げられるでしょう．もし彼がいなければ，19 世紀はオペラとヴィルトゥオーゾだけの世紀だったでしょう．

これだけ偉大な人物であるにも関わらず，同僚や後輩と比較して存在感が薄い．それは，遺された作品がこれだけロマンティックであるにも関わらず，彼の生涯にロマンを感じられる人が少ないからではないかと考えられます．一昨年，昨年とハイドン，ボッケリーニという二人の作曲家について新しい着眼点を示した講師によって，本日はメンデルスゾーンのロマンについて演奏とトークでご紹介いたします．

どなたでもご参加できます．
学校入り口でサマーセミナー
全体への参加登録の後，
講義室にお越しください．
当日は混雑しますので，
地下鉄でのご来場をお勧めします．

曲の情報：http://washizu.org/mendelssohn.html

お問い合わせ: h@washizu.org （鷲津）

メンデルスゾーンはロマン派を代表する作曲家である．ヴァイオリン協奏曲 (メンコン) の冒頭の主題は，ロマン派の代名詞といって良い知名度と説得力とを有する名旋律である．しかし，メンデルスゾーン一筋というファンにはなかなか出会えない．何かが物足りないのだろうか．彼の楽曲は名作揃いだ．メンコン以外にも，夏の夜の夢，無言歌集，歌の翼に，ピアノ三重奏，イタリア，スコットランド交響曲などどれもその分野を代表する名曲だ．題名を知らなくても，結婚行進曲を知らない現代人はいない．彼の音楽は特徴的だ．メロディが「飛翔」するのである．冒頭の主題において，ほんの数小節の間に 1 オクターブ以上かけあがっていくことに気づく．人気作に限っていえば，過半数がこの「飛翔」の主題の変形だといってもいいだろう．彼の音楽はそのはじまりにおいて一気に高揚し，我々は魅了される．

しかし，ロマン主義というのは理性よりも感情を，客観性よりも主体性を，そして合理性よりも幻想性を追求するものだ．お坊ちゃん育ちで早熟の天才だった彼の音楽には，そうした個人が刻印されていないと言われる．果たしてそうか．これが複雑なのである．彼の個人的な問題とは「神に向き合う自分」だからだ．

メンデルスゾーンの祖父は哲学者として有名なモーゼスというユダヤ教徒であり差別を受けた．息子のアブラハムの代になってプロテスタントに改宗し，銀行家として財をなした．そして，われらがフェリクスをはじめとする子供たちには最高の教育をほどこした．音楽の師として厳格なバッハ主義者である老師ツェルターのもとで 12-14 歳の頃に書いた習作的名作に弦楽のための 12 の交響曲がある．その 7 番のメヌエットのトリオにはコラールが使われている．これはバッハの影響であるが，世俗的舞曲であるメヌエットに宗教曲であるコラールを組み合わせるのは，彼の独創であった．しかも，この「コラール埋め込み」は一曲にとどまらず，14 歳の頃の苦悩に満ちたヴィオラソナタのメヌエットでも試みられている．

この世俗的舞曲と宗教曲とのぶつけあいは，その後第 2 交響曲「賛歌」で異例の形をとってあらわれる．すなわち，この曲は通常の交響曲 3 楽章の後に長大なカンタータ的な合唱つき宗教曲が続くのだが，第 2 楽章のスケルツォが，きわめて感傷的なワルツの甘い音楽なのだ．トリオになるとコラール主題と絡み合う．俗なるものが天上において聖なるものと自然に融合するかのように．これが，長大な祈りの音楽の前に配置されているのである．さらに，彼の短い生涯においては晩年といってよい，34 歳で書かれた チェロソナタ第 2 番の第 3 楽章では，コラール主題が冒頭にピアノによって現れ，それに対してチェロが疑問を呈するレシタティーヴォを歌う．まるで，「ヨブ記」で神に正義を問う羊飼いのような歌だ．それに対して，コラール主題は答えるが，最後はレシタティーヴォ主題が解消されない悩みを残しながらも終了する．次に，36 歳で書かれたピアノ三重奏第 2 番の終楽章は，メフィストフェレスの悪魔のワルツ的な主題ではじまり，それを駆逐するかのように コラール主題が降臨し，最後はコラール主題が勝つ．

まさにその音楽の真っ只中で，生涯を通して彼は神とは何かということを問うている．周囲のロマン派の作曲家と異なり，彼にとっては神の存在と同一性は自明ではなく，個人の問題として見つめざるを得なかったのだ．舞踏曲の主題やレシタティーヴォが彼自身であるとするなら，コラールは神だ．その神を自分の真横に置いたり，問いかけてみたり，対決したりする．これが，感情，主体，幻想を第一とするロマン主義の立場でなくて何であろう．

こう考えると，メンデルスゾーンがヴィクトリア時代の 英国を第二の故郷と考えて，スコットランドあるいはケルト文化に共感したことも理解できる．ユダヤとキリストという「二つの神」の問題を解決するためには，聖と俗を止揚させる方法以外に，「二つの神」が誕生する以前の文化の基層に降りるという方法がありえる．それがケルトだった．実際彼はケルトの祝祭についてシェイクスピアが書いた「夏の夜の夢」序曲を 16 歳で書いて実質的なデビューを果たした後 10 度も渡英し，ケルトの「江ノ島」たるフィンガルの洞窟において有名な序曲を書き，ゲーテ原作の異教の物語「最初のワルプルギスの夜」をカンタータで歌い上げ，そしてケルト人の末裔たちの女王に捧げる畢生の大作「スコットランド交響曲」を書くわけである．この交響曲の終楽章は，ワルプルギスの第 7 曲の「陽があがる」と同じテーマで終結する．異教の神の永遠性を高らかに歌い上げている事実は，従来の研究では指摘されていないが，キリスト教的には危険であり，日本人にとっては危険というよりも魅力的に感じられまいか．

ソプラノ：村井都

声楽を 飯田みち代，C・ヴァルダドルフの各氏に師事．イタリア短期留学ではスザンナ・ギオーネ氏のマスターコース修了．〈アンサンブル華〉を主宰し 福祉会館等で 音楽を通じてのヒーリングを開催．2015年6月28日メニコンHITOMI ホールにて，ピアニスト吉永哲道氏とのジョイントコンサート．

ピアノ：鷲津潤爾

幼少よりピアノ演奏を習得．1985年より設立間もない名古屋大学医学部室内合奏団でピアノを担当．22年間外科医として研鑽を積み，主に消化器癌の治療に当たっていたが，一転，在宅医療に身を投じ，「安心して暮らし，自分らしく死ぬ」をサポートしている．旅こそ人生で普段の生活は次の旅までの仮の姿だと思っているが，音楽はいつも帰る場所です．

ヴァイオリン：石川英樹

4歳よりヴァイオリンを故近藤フミ子に師事 10歳で，名古屋青少年交響楽団に入団 コンサートマスターを務める．大学2年時，浜松医科大学管弦楽団とモーツアルトvn協奏曲第3番を共演．（財）浜松交響楽団コンサートマスターを務める．ウィーン・フィルコンマスのライナーホーネック氏の個人レッスンを受講．オーディションに合格し，水戸芸術館で開催された安永徹氏の室内楽公開レッスンを受講．全国医科学生オーケストラに参加し，1992年1993年コンサートマスターを務める．これまでに故近藤フミ子，磯崎陽一，川嶋秀夫，森下幸路氏に師事．現在，アンサンブル名古屋コンサートマスター．

左記の下線の曲を演奏します．

講師について

1970 年愛知県生まれ．愛知県立千種高等学校，東京工業大学を経て東京大学大学院博士課程修了，博士(学術) 取得． 出版社を経て，企業研究所にて研究に従事． 専門は界面の物理化学の大規模分子シミュレーション．京都大学拠点研究代表者，名古屋大学非常勤講師などを兼任．

'74 年からピアノを米国クリーブランドにて Birute Smetona， 京都にてカズコ・マサダ・ザイラー，名古屋にて磯村奈々の各氏に師事． '82 年からチェロを林良一氏に師事，名古屋青少年交響楽団に所属， バルトーク弦楽四重奏団の第一回公開レッスン受講， 現在もセンチュリー室内管弦楽団などにエキストラ参加多数．'88 年から現代詩を鈴木志郎康氏に師事．'94 年エジプトにてストリート音楽に目覚め， アコーディオンとチェロのストリートユニットを神田神保町にて結成． 表参道ストリートをはじめ，クラブ，美術館，結婚式など広範に演奏活動．他に，くものすカルテット，The margarines， 桃梨，J.e.t などの バンドのライブ，CD にチェリストとして参加． 最近は，親鸞聖人 750 回大遠忌に際し宗教曲を弦楽二重奏に編曲し東別院にて演奏， 尾張温泉にて演歌の瀧慎太郎氏をチェロ一本で伴奏し好評を博す． 作曲は '74 年よりはじめ，チェロ協奏曲 ('84) など．作品は川崎 K-CITY FM，東京 MX テレビなどで放送された． 最近は，室内楽の小品を中心に作曲しており，「弦楽四重奏のための福島 (の日本人)」('11)，「ソプラノ，オーボエ，弦楽四重奏のためのヴォカリーズ」('13) など．

'13 年 6 月， 第 148 回とよたクラシック同好会にて「ハイドンに学ぶ 宮仕えとイノベーションの関係」， '14年7月愛知サマーセミナーにおいて「室内楽の父：ボッケリーニ」についてレクチャー＆ライブを実施．本会はそのシリーズ第3回目となります．